

Title	一外科医，40年で識った「一生勉強，一生青春」
Author(s)	松井，淳一
Journal	歯科学報，119(5)：446-446
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10130/5022">http://hdl.handle.net/10130/5022</a>
Right	
Description	

## 特別講演 4

## 一外科医，40年で識った「一生勉強，一生青春」

東京歯科大学市川総合病院外科学講座教授 松井 淳一

私が医学部を卒業した40年前，自分がどんな医師になるのか，その時に抱いていた白衣を着ている自分のイメージは，患者さんの全身を診てあげられる医師，そして，自分の手と技術で治療してあげられる医師の姿でした。その二つが合体した自分の医師としての姿は，外科医でなくてはなりません。経験を積みば積むほど患者さんを診てあげられる範囲が広くなり，自分の手と技術を磨けば磨くほど患者さんをより良く助けられる外科医になるぞ，そんなとても前のめりの気持ちを持って，私は外科医の道を選びました。

外科医として生きてきた中で学んだのは，患者さんの診断から治療を始めるには医師としての五感だけではダメで直観と判断力，決断力も大切だ，そして，手術には自分の手と技術だけではダメで直観力，判断力，決断力がとても重要だ，ということです。この直・判・決の力を大切に思い自分の中で磨いて来ました。実は，この直・判・決にはちょっと自信を持っているので，「外科医になって良かった，外科医は天職であった」と，今思っています。

専門として膵臓と胆道（胆嚢や胆管）に打ち込んで，膵臓疾患と胆道疾患の診断，手術，治療の難しさにチャレンジして来ました。この膵臓，胆道の診断，手術には，この直・判・決が極めて重要で，困難だからこそ患者さんに元気になってもらえると，それを為し得た経験を重ねるごとにその喜びはどんどん大きくなりました。

一外科医として最後の時間である11年余を東京歯科大学市川総合病院で思いっきり仕事できたのは本当に有り難く幸せでした。赴任当時には外科年間手術件数は，600件台でしたが，2018年には1,000件越えを達成できました。これまで私たちにご支援，ご協力いただいた方々にご出席いただき，「1,000件達成記念祝賀会」（写真）を開催いたしました。改めましてここに御礼を申し上げます。

今，私の一外科医としての40年を振り返り，実感しているのは，全身を診ること，自分の手と技術を磨くことの広さ奥深さをまだまだ極められないな，まだまだ発展途上で一生勉強だな，ということ，一方で，外科の広さや奥深さを極められないながらも，膵臓外科医としてその深さをやっとならぬと識ることができ，困難に立ち向かうと今でも青春のようにワクワクする，ということ，です。



## 《プロフィール》



## &lt;略歴&gt;

昭和54年3月 慶應義塾大学医学部卒業  
 昭和54年5月 慶應義塾大学医学部外科学教室  
 昭和61年8月 栃木県立がんセンター外科医員

平成元年1月 カナダ・トロント大学医学部消化器科留学（～1991年2月）  
 平成3年4月 栃木県立がんセンター手術室医長  
 平成11年6月 大田原赤十字病院第1外科部長兼内視鏡センター長  
 平成16年9月 慶應義塾大学医学部外科学教室非常勤講師  
 平成18年5月 さいたま市立病院副院長兼外科部長  
 平成18年9月 慶應義塾大学医学部客員助教授（外科学）  
 平成20年11月 東京歯科大学市川総合病院外科学講座教授  
 平成23年4月 慶應義塾大学医学部客員教授（外科学）  
 平成24年4月 東京歯科大学市川総合病院外科学講座主任教授  
 平成25年6月 東京歯科大学市川総合病院副院長  
 令和元年6月 東京歯科大学副学長  
 現在に至る